



元気っ子

No.213 ながさわ保育園

平成 27 年 5 月号

園長 市川 温 予

新緑が美しい季節になってきました。

新年度がスタートして、はや一ヶ月が経ちました。新しく入園したお友達は、はじめて保育園という大きな集団の中で生活することに涙する子や不安から鞆をかけたままお部屋にいる子など、いろんな姿が、みられました。少しずつ涙することも少なくなり、お部屋で先生に抱っこされながら友達の遊んでいる姿をじっと見ていたり、気の合う友達と一緒にブロックや絵本を見たりしながら一人ひとりが自分の落ち着く場所や好きな遊びを自分で見つけ出しています。

お天気のいい日は、散歩に出かけたり、園庭で伸び伸びと遊んでいます。

園庭で遊んでいるところを見ていると、本当に一人ひとりが好きな遊びをしています。

砂場でプリンを作っていたり、追いかっこをしたり、サッカーをしたり、滑り台の上で友達と、楽しそうに笑っていたり、園庭の隅っこで数人が集まり、ダンゴムシを見つけ、カップにいっぱい入れている子など様々な姿があります。どの子もいい表情をしています。

新入のお友達も外に出ると心が解放されるのか笑顔がいっぱいです。子どもはこのような自分で自分の居場所を確保していきます。子ども自身が自分の力でエネルギーをフルに使い、環境に馴染むために一生懸命小さな身体で頑張っています。子どもの力ってすごいですね。そんな子ども達を先生達も一人ひとりの思いを大切に受け止めながら関わっています。

子どもはいくつになっても褒められる、励まされる、思いを受け止められる、頼りにされる等、大人から温かく受け止められ、認められてこそ自信を持ち、他人を思いやる心の余裕が育てられるのだと私は思います。自然の中で素足になって五感を刺激しながら様々な生の体験をし、そこから生れる感動や喜びは心と身体の基礎を作っていきます。この乳幼児期には特に大切だと思います。

これから気候もいいので戸外で思いっきり身体を動かし、エネルギーを発散できるような環境作りくりをしていきたいと思っています。

“子どもは、自然の中で自由に伸び伸びと”が一番ですね。

